



平成20年2月期の業績予想及び経営方針

平成19年10月15日

上場会社名 J.フロント リテイリング株式会社

上場取引所 東 大 名

コード番号 3086

本社所在地都道府県

(URL <http://www.j-front-retailing.com/>)

東京都

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼最高経営責任者

(氏名) 奥田 務

問合せ先責任者 (役職名) 業務本部財務部長

(氏名) 小澤 雅

TEL (03)6895-0178

米国会計基準採用の有無

無

単元株制度採用の有無

有(1単元 1,000株)

(百万円未満切捨て)

1. 20年2月期の連結業績予想(平成19年3月1日～平成20年2月29日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
平成20年2月期	1,039,700	42,400	41,500	22,100

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 41円77銭

(注) 1. 企業結合に係る会計基準に基づき、大丸グループについては平成19年3月1日から平成20年2月29日までの業績、松坂屋ホールディングスグループについては平成19年9月3日から平成20年2月29日までの業績を連結しております。

2. 「負ののれん」が108億円(5年償却)発生する見込みであるため、上記の予想には、営業外収益に「負ののれん」償却額11億円を織り込んでおります。

3. 1株当たり予想当期純利益(通期)の算出にあたっては、平成19年9月3日現在の発行済株式数を使用しております。なお、発行済株式数においては、当社の子会社が保有する当社株式数及び当社の関連会社が保有する当社株式数のうち当社の持分に相当する株式数を控除しております。

平成19年9月3日現在の発行済株式数： 529,105,956株

(参考)

上記の内、大丸グループ業績(平成19年3月1日～平成20年2月29日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
平成20年2月期	862,600	36,500	35,300	18,500

上記の内、松坂屋ホールディングスグループ業績(平成19年9月3日～平成20年2月29日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
平成20年2月期	177,100	5,900	5,600	6,800

(注) 当社は平成19年11月1日に(株)松坂屋ホールディングスを吸収合併する予定であるため、平成19年9月3日から平成19年10月31日までの松坂屋ホールディングスグループの業績と平成19年11月1日から平成20年2月29日までの松坂屋グループの業績を合算した数値を記載しております。

2. 20年2月期の個別業績予想(平成19年9月3日～平成20年2月29日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
平成20年2月期	7,600	5,800	5,300	5,300

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 9円88銭

(注) 1株当たり予想当期純利益(通期)の算出にあたっては平成19年9月3日現在の発行済株式数を使用しております。

平成19年9月3日現在の発行済株式数： 536,238,328株

3. 配当の状況

基準日	1株当たり配当金		
	中間期末	期末	年間
19年2月期	円 銭 — —	円 銭 — —	円 銭 — —
20年2月期	— —	— —	4 50
20年2月期(予想)	— —	4 50	(普通配当 4円) (記念配当 50銭)

(注) 上記の予想は、発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。なお、上記業績予想につきましては、添付資料の3ページを参照してください。

経営方針

1. 経営の基本方針

株式会社大丸及び株式会社松坂屋ホールディングスは、2007年9月3日、株式移転により共同持株会社 J・フロント リテイリング株式会社を設立し、経営環境の変化にスピーディーかつ的確に対応し、抜き出たレベルのお客さま満足と企業価値の向上を実現するための新たな経営体制を整えました。

J・フロント リテイリンググループは、時代の変化に即応した高質な商品・サービスを提供し、お客さまの期待を超える満足を実現するとともに、公正で信頼される企業グループとして広く社会への貢献を通じさらなる発展を目指してまいります。

また、百貨店事業を核とした、質・量ともに日本を代表する小売業界のリーディングカンパニーとしての地位を確立するために、「高質・新鮮・ホスピタリティ」をグループ発信テーマとし、以下の5つの方針に基づき行動してまいります。

- (1) 革新と成長への挑戦
- (2) スピードと徹底実行
- (3) 良質なコミュニケーション
- (4) 人材の育成・活用と公正な処遇
- (5) 社会的責任（CSR）重視経営の徹底

2. 利益配分に関する基本方針

当社は、健全な財務体質の維持・向上を図りつつ、利益水準、今後の設備投資、キャッシュ・フローの動向等を勘案し、連結配当性向30%を目処に適切な利益還元を行うことを基本方針としています。なお、当社は中間配当を行うことができる旨を定めております。

3. 中長期的な経営戦略

株式会社大丸及び株式会社松坂屋ホールディングスは持株会社体制の下、統合による経営資源の最適活用を行い、さらに統合シナジー（相乗効果）を発揮することによって、激変する外部環境にスピーディーかつ的確に対応し、お客さま満足と企業価値の最大化を目指してまいります。

まず統合によって拡充される人的資源やノウハウを共有化し、業務やシステムなどの標準化と効率化を徹底的に行い、また、増大する顧客基盤やキャッシュ・フローを有効に活用することによって営業力を抜本的に強化いたします。そしてこれらの活動を通じてコーポレートブランド力の向上とさらなる経営資源の拡充を図り、継続的な成長循環を構築いたします。

また、これまで両事業会社に取り組んできた諸改革を一段と推し進めるとともに、マーケット対応力を抜本的に強化することによって、さらなる成長を実現いたします。

上記の取り組みを進めていくなかで、お客さま、株主さまをはじめとするステークホルダーから高い評価をいただける、競争力の強いビジネスモデルの構築を行い、質量ともに日本を代表する小売業界のリーディングカンパニーに向け、さらなる飛躍と成長を図ってまいります。

4. 目標とする経営指標

当社グループは、成長力の抜本的強化と経営効率の向上による新たな成長戦略を推し進めるなかで、2010年度連結営業利益600億円（営業利益率4.9%）を目指してまいります。

また、人材、ノウハウ、保有資産など経営資源の最適活用により、強固な財務体質の構築を図ってまいります。

5. 対処すべき課題及び通期の見通し

今後、人口減少・少子高齢化、消費行動の多極化がさらに進む中で、業種・業態を超えた競合が一層激化するなど、当社グループを取り巻く環境はますます厳しさを増すものと予想されます。

このような厳しい環境に対処し、飛躍と成長を実現するため、持株会社であるJ.フロントリテイリングにおいては、グループの経営計画・管理機能の強化をはかります。また、事業会社である大丸は営業力の一層の強化、松坂屋は一層の経営の効率化にそれぞれ重点を置き、諸課題に取り組んでまいります。

これらにより、早期に統合効果を実現し、上記に掲げた営業利益600億円の目標達成にグループの総力を挙げて取り組んでまいります。

平成19年度通期の連結業績見通しにつきましては、売上高は1兆397億円、営業利益は424億円、経常利益は415億円、当期純利益は221億円を予想しております。

また個別業績見通しにつきましては、売上高は76億円、営業利益は58億円、経常利益は53億円、当期純利益は53億円を予想しております。